

第124号 令和2年7月15日発行

あまうが通信

あまうが(アモーガ)とは真実

発行所 ひょうたんから融通尊寺 〒651-0093 神戸市中央区二宮町4-8-14

電話078-221-5136

発行人 住職 宇喜多 智弘(うきた ちこう) メール yuzusonj@gmail.com

FAX078-221-9256

HP www.yuzusonji.or.jp

携帯 090-1480-4400

お盆の棚経たなぎょうについて

お盆参り=棚経をさせていただいておりますお家への、お参りの日時のご連絡は、お電話にて申し上げます。(いつも連絡が遅くご迷惑をおかけしております)

お参りの日時を早急にお知りになりたい方は、住職の携帯電話090-1480-4400へお電話下さい。留守番電話になっていますので、ご用件を録音して下さい。後程、お返事申し上げます

お盆大施餓鬼法会ぼんだいせがきほうえのご案内

融通尊寺本堂にて

8月15日(土曜) 午前10時と 午後2時の2回 厳修いたします。都合のよい方に、お参りしてください。1軒のお家からお1人のみのお参りで、お願い申し上げます。

毎年猛暑の中、多くの方にお参りいただいております施餓鬼法会ですが、本年は遺憾ながら、1軒のお家からお1人のみのお参りでお願いしております。人間は体は死んでも、その人を大切に思う人が1人でも居る限り生き続け働き続けるのです。本堂で、ご一緒に「盂蘭盆経うらぼんきょう」をおとなえし、亡き精霊への施餓鬼廻向を修します。供養、廻向とは、『思い出して差し上げて、死んでも生きている事を確認し合う』共同作業です。施餓鬼法会は生と死を考える集まりです。当日は入堂前に手を消毒していただき、検温をさせていただきます。マスクの着用をお願い申し上げます。

しょうりょう え、こうりょう

精霊廻向料は1口3,000円です。ご希望の方は、8月5日までに同封の申込書にご記入の上、廻向料を添えてお申込み下さい。

わからない事は住職の携帯電話090-1480-4400へお電話下さい。

《お盆って？》

『盆』という言葉は苦しみという古代インド語で、苦しみからの救いという意味で使われてきました。現在、日本では、《お盆》には亡き方が、生きた方の供養によって死後の苦しみから救われると信じられており、盆踊りは、苦しみから救われた喜びから踊り出したことから始まったそうです。また『盆』という言葉は、文字通りお供えの御馳走を沢山盛った器という意味だという、最新の研究報告もあります。

いつが《お盆》か？

というと、盂蘭盆経【ウラボンキョウ】というお経に7月15日と書いてあります。ところがこれは旧暦で、旧暦はお月様を中心としています。十五夜お月さんという言葉があるように、旧暦では15日は必ず満月の日です。現在普通のカレンダーに用いられている新暦では、約1ヶ月遅れの8月か9月の最初の満月の日が旧暦の7月15日になります。【今年(令和2年)の場合9月2日が満月で、旧暦の7月15日にあたります】

そこで、現在は大体1ヶ月遅れの8月15日を《お盆》としているようです。ただし、東京では盂蘭盆経に書いてある通り7月15日を《お盆》としているようです。融通尊寺では、新暦の7月15日から8月31日までを《お盆》といたします。

融通尊寺の《お盆》の行事は、住職が各お家へお参りさせて戴く棚経（盆参り）と、皆様がお寺にお参りされる盆施餓鬼法会があります。どちらか一方だけ申込まれる方と、両方希望される方がありますが、どちらでも構いません。申込みなどすべて強制的なものではありません。



「今回のコロナからは善いことしか起こらないよ」 斉藤一人さんの言葉

「何事もただそのままを喜びに 想う心を幸せと知れ」 川島房雄

以下の3つは神戸市営地下鉄の車内広告です。素敵なお翻訳です。

「愛とは、ひとつの心を二人でわかち合うことだ」

Love is composed of a single soul inhabiting two bodies アリストテレス

「負けたからといって、それがどうした。すべてを失ったわけではない」

What though the field be lost? All is not lost; ジョン・ミルトン『失樂園』

「楽しみと違って、幸せは、追い求めるものではない」

Happiness is not to be pursued, though the pleasure may be; エドワード・トーマス

